

シイタケ不時栽培に関する一事例

福岡県林業試験場 主 計 三 平

1. はじめに

シイタケの生産性の向上及び経営の改善をはかる目的で、生シイタケ生産の一事例について調査を行なったので、結果の概要を報告する。なお本調査にあたり、ご協力をいただいた松尾正二氏（経営主）に対し、厚くお礼を申し上げる。

2. 試験地及び調査内容

生シイタケ生産者（大牟田市）の経営内容を調査、分析し、さらにその結果にもとづき、ホダつき率及び品種の差にもなう経営分析等を試みた。なお生産費、生産量についてはホダ木1,000本当たりとし、4品種の平均値とした。また金額は後価計算とし、調査期間は42～44年までで、45年度は推定値とした。

3. 結果及び考察

ホダつき率は各品種とも86%程度で、発生量については表～1のとおり、品種間ではF～7が最も多く、ホダ木1本当たり1kgを示し、年度別発生率では各品種とも2年目が最高を示した。

経営分析結果は表～2・3に示すとおり、1日当りの自家労働報酬は3,000円程度となり、他の産物に対し比較的収益性が高いものと考えられる。しかしながら、このホダつき率及び発生量を1として、ホダつき率ごとの発生指数により算出してみると表～4のとおりとなる、即ち生シイタケ生産の場合、ホダつき率70%以下では経営面に不振をきたすことが推定される。

また、品種別収穫実績による収益関係を算出してみると表～5のとおりとなり、Aを100とした場合、Cでは141.8%となり、品種選定の重要性が明らかである。

なお、今後の物価上昇率が現在程度の状態続き、シイタケの値上がりが多少あるものと仮定した場合の経営分析を行なったものが表～6である。これによると45年度を基準とした場合、7～10年後のシイタケ栽培は85%程度のホダつき率でも採算がとれなくなるおそれがあるように考えられる。

4. おわりに

生シイタケ栽培の実態を調査、分析し、さらに一部の考察を加えて検討を行なった結果、品種の選定並びにホダつき率の向上等により、生産性を高めることは勿論、生産規模の適正、生産資材の共同購入等による生産コストの引下げをはかり、所得が最大となるよう経営方法を工夫していくことが重要な課題と考えられる。

参考文献及び資料

1. 温木竹則：シイタケ栽培技術上の問題点（1969, 山林1019号）
2. 赤野 林：シイタケ栽培と経営（第1版）（1970, 誠文堂新光社発行）
3. 常田 隆：シイタケ栽培これからの行き方（蘭草, 15巻12号）
4. 三田 誠：安心して取りくめるシイタケ栽培に（蘭草, 15巻4号）

表～1 品種別、年度別発生量（ホダ木1,000本当たり、ホダつき率86%）

接 種 年 月	42年2月～3月				計	1,000本 当り平均 発生量	1kg当り 平均単価	金 額
	16～3 (1,416本)	1,605 (303本)	F-7 (560本)	農研2号 (1,407本)				
ホダ木 発生量					3,706本 (21,817㎡)			
42 年 度	55.3 ^{kg}	38.2 ^{kg}	124.7 ^{kg}	32.2 ^{kg}	250.4 ^{kg}	62.6 ^{kg}	318.5 ^円	19,938
43 年 度	391.4	383.6	570.0	330.0	1,675.0	418.7	309.2	129,462
44 年 度	234.1	216.4	323.0	238.3	1,011.8	252.9	371.8	94,028
45 (見 込)	93.4	86.4	80.7	119.0	379.5	95.0	333.1	31,644
合 計	774.2	724.6	1,098.4	719.5	3,316.7	829.2	—	275,072
45年度現在 ホダ木残存比	60.5%	66.0%	61.9%	70.0%				

(注) ・45年度の発生量は、ホダ木の損傷度合を考慮して、44年度の発生量に対して農研2号(50%)、16～31605(40%)F～7(25%)とした。

・45年度のシイタケの価格は42～44年度価格の平均単価とした。

表~2 生産費(後価)

(ホダ木1,000本当り 45年度現在)

費目	金額	備考
原木代	50,592 ^円	・物価上昇率及び預金利率は年7%とした。
種籾代	16,415	
ホダ場資材費	12,994	・自家労賃1日当り見積額 42年で男1,200 ^円 女700
施設費	15,270	
施設償却費	3,050	・労働人員 男 女 42年 12人 19人 43" 6 14 44" 3 10 45" 2 6
出荷資材費	15,717	
雇用労賃	13,218	計 23人 49人
小計	127,256	
自家労賃見積額	75,533	
投下資本額	29,499	
利子見積額		
合計	232,288 ^円	

表~3 経営分析(後価)

(ホダ木1,000本当り 45年度現在)

	費目	金額	備考
A	粗収入	304,899 ^円	A - B
B	経営費	127,256	
C	純収益	177,643	
D	自家労賃見積額	75,533	B + D
E	投下資本額	202,789	
F	利子見積額	29,499	B + D + F
G	生産費用	232,288	
	利潤	72,611	A - G

1日当り自家労働報酬 3,065^円(C - F + D) ÷ 自家労働日数

(注) 土地代は生産費より除外した。

表~4 ホダつき率換算収益(後価)

(ホダ木1,000本当り, 45年度現在)

ホダつき率	75 %	70 %	65 %	60 %	備考
発生産量	2519.9kg	1959.1kg	1358.8kg	961.2kg	ホダつき率85%を1とした場合の収益差
粗収入	231,618 ^円	180,058 ^円	124,904 ^円	88,353 ^円	
生産量	232,288 ^円	232,288 ^円	232,288 ^円	232,288 ^円	
利潤	-670 ^円	-52,230 ^円	-107,384 ^円	-143,935 ^円	

表~5 品種別収益比(後価)

(ホダ木1,000本当り, 45年度現在)

品種	16~3 (A)		1605 (B)		F~7 (C)		農研2号 (D)		備考
	発生産量	金額	発生産量	金額	発生産量	金額	発生産量	金額	
収益	774.4kg	256,782 ^円	724.6kg	240,011 ^円	1098.4kg	362,932 ^円	719.5kg	240,528 ^円	16~3の発生産量を100とした場合
比率	100%		93.4%		141.8%		92.7%		

表~6 経営分析試算(後価)

(ホダ木1,000本当り 45年度基準)

年度	50年度	55年度	備考
粗収入	338,073 ^円	373,255 ^円	物価上昇率は年5% 労賃年7% シイタケについては年2%とした。
経営費	196,173	250,370	
自家労賃見積額	96,402	123,035	
投下資本額	292,572	373,405	
利潤	45,498	-150	